

2025.8

vol

9

SHIMONOSEKI REHABILITATION HOSPITAL

Together



短下肢装具の詳細はこちら



一般社団法人 巨樹の会

下関リハビリテーション病院

〒750-0064 山口県下関市今浦町9-6 TEL.083-232-5811 FAX.083-232-0219



転ばぬ先の装具

脳卒中片麻痺と短下肢装具の大切な関係

脳卒中により片麻痺が生じた患者さんは、短下肢装具を「使う」か「使わない」かで、歩行や生活の質に大きな差が生まれます。今回は動画での比較をもとに、装具の意義を解説します。



装具難民という現実

近年、リハビリテーションの現場で「装具難民」という言葉が聞かれるようになりました。これは、本来装具を必要とする方に適切な装具が提供されていない状態を指します。足に合わず傷ができたり、装着が億劫で使わなくなったりするケースも少なくありません。特に「短下肢装具」は在宅生活での基本動作や日常生活動作を支える重要な道具であり、使わないことで機能低下や転倒のリスクが高まります。

「装具は体の一部」という意識を

当院には装具の専門知識を持つ理学療法士が中心となる「装具委員会」があり、患者さんごとの歩行状態や生活環境を評価したうえで、装具の選定・調整を行っています。装具は単なる道具ではなく「生活の質」を高めるパートナーです。退院後も安心して装具を使い続けていただけるよう、定期的なフォローアップや再評価も実施。装具について悩まれることがあれば、当院の装具チームがしっかりと支えます。



装具あり・なしの歩行比較

装具を使用した歩行では、踵からしっかり接地でき、安定した歩行が可能です。一方、装具なしの歩行ではつま先や足裏から接地するためバランスが不安定となり、歩行スピードの低下や姿勢の崩れが目立ちます。特に足首の柔軟性を保つことが重要で、これを損なうと装具そのものが合わなくなり、使用困難に陥るケースもあります。動画での比較は、装具の効果を視覚的に理解できる貴重な材料です。

